Corridart［コリダール］

横須賀美術館ニュース「corridart」vol.28
発行：横須賀美術館　〒239-0813 横須賀市鴨居4-1
Tel.046-845-1211
ホームページ https://www.yokosuka-moa.jp/

横須賀美術館ニュース
NEWS FROM YOKOSUKA MUSEUM OF ART
2022.10
volume. 28

「Corridart」（コリダール）とは、corridor（回廊）とart（美術）の二つのフランス語を合わせた造語です。横須賀美術館地階の回廊型のギャラリーにちなんで名づけられました。

川端実《リズム緑》1959年、油彩・画布
©Y.Kawabata&JASPAR,Tokyo,2022 E4856

［特集］
開館15周年
つながるおもい
4名の作家で振り返る、横須賀美術館の寄贈作品

［展覧会紹介］
PRIDE OF YOKOSUKA スカジャン展

［開催しました］
開館15周年記念
「運慶ー鎌倉幕府と三浦一族」横須賀美術館　能「七騎落」

［この1点］
土谷武《蝉 V》

［お知らせ］
ただいまラジオ番組放送中!

編集：横須賀美術館／令和4年10月発行
デザイン：tegusu Inc.
印刷：ニューカラー写真印刷株式会社
＊このニュースは5,000部作成し、1枚あたりの印刷費は約49.5円です

横須賀美術館の情報は公式TwitterやFacebook、YouTube、Instagramでもご覧になれます。

お知らせ　ただいまラジオ番組放送中!

「まなび猫調査隊」／「遊びにきませんかスタジオへ」

現在、地域密着のホットな情報と音楽満載のラジオ放送を配信するFMブルー湘南（78.5MHz）にて、美術館が関係する番組が2本、放送されています。

「まなび猫調査隊」は、横須賀市の社会教育施設である図書館、博物館、美術館、生涯学習センターが連携し、週替わりで各施設のさまざまな情報を紹介する番組です。各館のスタッフと、そこに住み着いた猫（＝まなび猫）とのやりとりが、なんとも愉快で楽しく、普段はなかなか知りえない司書や学芸員の姿が見えてくるかもしれません。開催中のイベントや展覧会紹介をはじめ、各施設の社会的な役割や機能、裏話なども知ることができるので、番組名のとおり学びの多い番組となっています。

「まなび猫調査隊」は、毎週木曜日14時40分～14時50分に放送され、毎月第三木曜日が美術館編の放送日となっています。ちなみに、美術館に住み着いているのは、のんびりとした男の子の子猫ミュゼです。まなび猫調査隊のなかでも、癒し系ペアと呼ばれているとか…!?

そんな「まなび猫調査隊　美術館編」の次に放送されているのが、「遊びにきませんかスタジオへ　美術館編」です。番組パーソナリティの灯織さんと当館広報担当の職員が生放送で、美術館周辺の季節の移り変わりや、開催中の展覧会の見どころなどをお届けしているのですが、灯織さんのおかげで、飾らない自然なトークが魅力となっています。時にはゲストで、アーティストが出演することも…！

「遊びにきませんかスタジオへ　美術館編」は、毎月第三木曜日15時～15時30分に放送中です。

いずれの番組も、午後のティータイムにぴったりの内容ですので、お仕事や家事の合間に、いちどお聴きになってみてください。FMブルー湘南は、ラジオ局のHPでもお聴きになれます。

まなび猫　調査隊

毎週木曜日 14時40分～
FMブルー湘南から「にゃ～ぉ！！」
協力：横須賀市教育委員会・わらいき

美術館の猫
『ミュゼ』

図書館の猫『ブック』　生涯学習センターの猫『ホープ』　横須賀の猫の親玉　博物館の猫『ミューザ』

各館に住みついた猫のイメージ。横須賀の猫の親玉もいるそうです…
©たちばないさぎ

FMブルー湘南パーソナリティの灯織さん
聞き上手で、肩の力が抜けた自然なトークが魅力です

この1点　土谷武《蝉 V》

1982年、コルテン鋼　17.0×60.0×28.5㎝

令和2年度の寄贈作品です。

横たわる重厚な鉄の延べ棒。二本のようで、一方ではつながった一体のものです。その表面だけを薄く削いだような「翅（はね）」は、やや横にずれたり、ふわりと浮かび上がろうとしたりしています。二枚にみえる「翅」は、実はそれぞれが二重となっており、細かな振動による残像であるかのような錯覚に陥ります。

京都の、代々製陶業を営む家に生まれた土谷武（1926-2004）は、家業を継ぐ勉強のために入った京都市立美術工芸学校で彫刻の魅力に触れ、1944（昭和19）年、東京美術学校彫刻科塑造部に進みました。在学中の1947年頃には、生涯親しく交流した柳原義達（1910-2004）を知り、その影響を受けつつ、人体をモチーフとした具象的な彫刻を制作していましたが、1961年から63年にかけてのフランス留学の際に、自分ならではのものの見方を探求する手段として、抽象的な彫刻に取り組みます。帰国後は、それまでの塑造を基本とする姿勢から、石や鉄といった硬質な素材と直接向き合い、それらがとりうるかたちの可能性を押しひろげてゆくような制作態度へと移行してゆきました。

1981年以降、「蝉」と名付けたシリーズを制作しており、本作はそのひとつです。

「蝉」という名は、具体的な生きものを思わせますが、蝉に似せたものを作ろうとしたのではありませんでした。土谷自身の語るところでは、放置していた頑丈な鉄製の作業台がある日、何か違うものに感じられ、その上に数枚の鉄板を重ねてみたり、はみ出させたりしてみたことが、一連の制作の源泉となったそうです*。

鉄という素材は重く硬い反面、薄く延ばすこともでき、そうしてできた板には意外な軽さとしなやかさがあります。重く、容易には動かなそうな鉄の塊と、軽やかな鉄の板とがあらためて出会ったことから生まれる緊張感。それはちょうど、次の瞬間には騒がしい羽音とともに飛び去ろうとする運動性を秘めながら、一瞬、全身を静止させる、蝉の存在感と似ているかもしれません。

素材の特性を活かしながら、素材に対する私たちの先入観を裏切る、土谷作品のひとつの特色がよく表れている作品です。（Kt.K）

◇第3期所蔵品展で展示します。

横須賀美術館の所蔵作品の中から、毎回1点を選んで学芸員がくわしくご紹介するコーナーです。

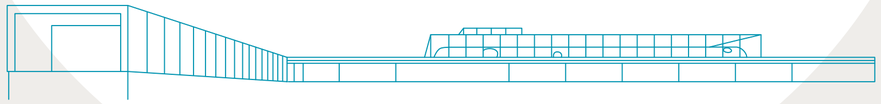
＊『土谷武作品集』（1997年、美術出版社）p.62

15 th anniversary

つながるおもい

4名の作家で振り返る、横須賀美術館の寄贈作品

横須賀美術館では、年4回の所蔵品展を開催し、所蔵する日本の近現代の美術作品や、横須賀ゆかりの作家の作品などをご紹介しています。
今会期の特集では、さまざまな方からご寄贈いただいた作品に注目します。開館以来15年の間に、寄贈によって当館のコレクションに加わった作品は800点あまり。そのひとつひとつに、作品をつくった人、所蔵していた人、寄贈してくださった人の想いが込められています。特集では、その中から代表的な作品をご紹介いたします。



1 川端実

Kawabata Minoru

3.11直後の展示を機に寄贈された40点の大作

当館が川端実の代表作である《リズム茶》を収蔵していたことから、生誕100年にあたる2011年の回顧展の開催を、関係者の方からご提案をいただきました。4月の開幕を目指し、戦後の再出発期から晩年まで代表作を中心にたどる展覧会の準備を進めていく中、3.11が起きました。余震が続き、計画停電もある中で本当に開催できるかとも考えましたが、無事開幕することができました。展覧会終了後、ご遺族より作品をまとまって寄贈したいというありがたいお申し出があり、川端実の画業全体を網羅するような油彩、アクリルの大作約40点を譲っていただきました。またその内の1点はニューヨーク近代美術館の展覧会に貸し出されるなど、戦後日本美術の重要な一角を占める川端実の抽象絵画は、当館のコレクションにおいても強い存在感を示しています。

川端実《Untitled》1993年 アクリル・画布　©Y.Kawabata&JASPAR,Tokyo,2022 E4856

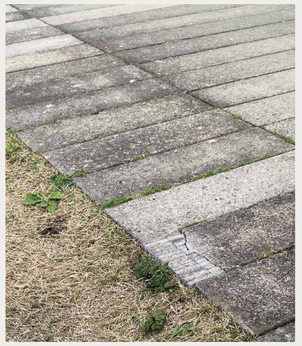
川端展展示風景

2 髙田安規子・政子

Takada Akiko and Masako

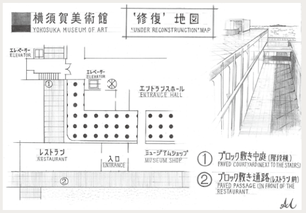
美術館にそっと介入する作品の収蔵

髙田安規子・政子は双子のユニットで、身の回りにあるモティーフをスケールダウンさせた作品やインスタレーションを制作しています。2019年に当館の企画展「センス・オブ・スケール展」に出品していただいた際に、横須賀美術館の建築にそっと介入するようなインスタレーションと写真《修復(中庭)》《修復(通路)》を新作として発表し、その後ご寄贈を受けました。修復された破損箇所は建築と一体化し、ささやかでありながらふと気づくと強く印象に残る作品です。



髙田安規子・政子《修復(通路)》2019年、インスタレーション　撮影:長塚秀人

拡大図



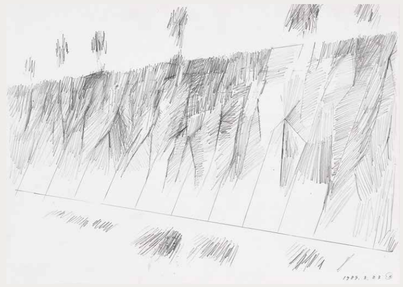
'修復'地図

3 若林奮

Wakabayashi Isamu

作家の遺志を継ぎ設置された巨大彫刻作品

横須賀美術館の前庭には、若林奮の彫刻作品《Valleys(2ndStage)》(1989年制作／2006年設置)が設置されています。2003年夏、若林奮は美術館建設予定地を訪れ、自作《Valleys》の寄贈を表明するとともに設置について関係者と話し合いました。が、同年10月に逝去したため、実際の設置は遺志を継いだご遺族と関係者の協力を得ておこなわれました。
美術館開館後の2008年2月に開催した「若林奮―VALLEYS」展では、若林奮の仕事におけるValleysの位置づけを探りました。その後も所蔵品展で若林作品の紹介につとめ、2020年にはご遺族から「若林奮―VALLEYS」展出品作品を中心とする素描160点の寄贈を受けました。これらの作品は、没後20年にあたる2023年に所蔵品展で展示予定です。



若林奮《89-25》1989年

Valleys

4 谷内六郎

Taniuchi Rokuro

寄贈によって明らかになった仕事

別館・谷内六郎館では、代表作である『週刊新潮』表紙絵を中心に、谷内六郎の世界を紹介していますが、生誕100年にあたる2021年には、場所を本館の所蔵品展示室に移して大回顧展を開催しました。代表作である表紙絵はもちろん、貴重な初期作品や初公開作品を含む約300点を紹介した本展は、ご遺族の協力を得ながら進めてきた調査研究の成果をお見せする機会となりました。また、谷内六郎と交流があった個人の方からの寄贈作品もお披露目しました。《草履原画 外国模様》は、新宿・伊勢丹の履物売場の主任を勤めていた方がご寄贈くださった作品で、1960年5月、母の日に合わせて開催された「東西履物大会」で販売された草履のデザイン画です。ご寄贈によって、世に知られていなかった谷内六郎の仕事が一つ明らかになりました。

《草履原画 外国模様》1960年 水彩・紙 当館蔵

©Michiko Taniuchi

《草履 外国模様》1960年 個人蔵

「生誕100年 谷内六郎展」会場風景

収集方針

横須賀美術館は2007年の開館以降、絵画、彫刻を中心に、約5000点の日本の近現代の美術作品を所蔵しています。

1985(昭和60)年	1996(平成8)年	1998(平成10)年	1999(平成11)年	2007(平成19)年
横須賀市の 美術品収集が始まる	朝井閑右衛門の作品が 一括して市に寄贈される ／美術館建設が具体化	谷内六郎夫人・達子氏から 『週刊新潮』表紙絵が 多数寄贈される	美術館基本計画策定委員会によって美術作品の収集対象が近現代の絵画、版画、彫刻となり以下の基準で収集が進む ●横須賀・三浦半島にゆかりのある(出身、居住、在住等)作家の作品 ●横須賀・三浦半島を題材とした作品/「海」を描いた作品 ●日本の近現代美術を概観できる作品	市制施行100周年記念 事業の一環で横須賀美術館 が開館

作品購入／ロゴについて

「ふるさと納税」の制度を活用して、みなさまからの寄附金をお受けしています。

2019年4月から、「ふるさと納税」の制度を活用して、みなさまからの寄附金をお受けしています。お寄せいただいた寄附金は、「美術品等取得基金」に積み立て、美術館のコレクションを充実させるために役立ててゆきます。みなさまのご協力をお願いします。

横須賀美術館
公式ホームページ
(ご寄附のお願い)

▶このロゴは、当館のロゴマーク、サイン計画を手がけた廣村正彰さん、「ふるさと納税で美術を応援!」というキャッチフレーズは、コピーライターの要田雅之さんによるものです。

令和4年度第3期所蔵品展

つながるおもい 近年の寄贈作品から

会期	2022年10月1日(土)～12月25日(日)
開館時間	10:00～18:00
休館日	10月3日(月)、11月7日(月)、 12月5日(月)
観覧料	一般380(300)円 高校生・大学生・65歳以上280(220)円、 中学生以下無料 ＊( )内は20名以上の団体料金 ＊高校生(市内在住または在学に限る)は無料 ＊身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付添1名様は無料
会場	地階　所蔵品展示室
主催	横須賀美術館

開館15周年記念

「運慶―鎌倉幕府と三浦一族」を開催しました!

これまでの15年間で培ってきた展示のノウハウを最大限生かし、さらには、これまで以上に横須賀の魅力を伝えられる美術館になりたい!との決意を込めて、開館15周年を迎えた2022年夏、運慶をはじめとする中世期の地域の仏像20余点をご紹介しました。

これまで一貫して近現代の美術を扱ってきた横須賀美術館が、12世紀の文化財、しかも仏像を展示することに…そこには多くの課題がありました。
まず重要なことは、横須賀市内の8つの寺院から、お寺に安置されているお像を展覧会のためにお貸出しいただくこと。幸い、お願いしたすべての寺院から貸出し許可をいただくことができました。
次に、今回の出展物のうち17点を占める国指定の重要文化財に関する移動と公開。これには文化庁の許可が必要なため、独立行政法人国立文化財機構文化財活用センターという専門機関とともに、展示環境や防災、防火などの課題を一つ一つ解決していきました。環境改善に取り組んでいると瞬く間に時間が過ぎ、正式な許可が下りたのは2022年に入ってからでした。
また、内容面では、中世を専門とする博物館である神奈川県立金沢文庫にご相談し、巡回館の立場で関わっていただくことができました。さらに、横須賀市自然・人文博物館、横須賀市立中央図書館郷土資料室からも、多くの地域史料をお貸出しいただきました。
このように、市内の寺院、文化庁、確かな専門性を持つ博物館のご協力のもと信頼度の高い展覧会を行うことができ、横須賀美術館に来てくださるお客様の層も、ぐっと広がりました!

運慶―鎌倉幕府と三浦一族

会期	2022年7月6日～9月4日
巡回	神奈川県立金沢文庫 2022年10月7日～11月27日
関連事業	横須賀美術館 能「七騎落」 2022年8月13日開催 その他にも連続講座(4回)、住職によるお寺と仏様のトーク(2回)、中学生のための美術鑑賞教室特別講座(1回)、美術館坐禅会(2回)、集まれ仏像好き!ここだけの仏様対談(2回)など開催。

横須賀美術館　能「七騎落」　写真提供＝(公社)観世九皐会

PRIDE OF YOKOSUKA
スカジャン展

11月19日(土)から開催のスカジャン展では、テーラー東洋(東洋エンタープライズ株式会社)が所蔵する貴重なヴィンテージ・スカジャン約140点を中心に展示を行います。あわせて、スカジャンと大きく関わりを持つ、アメリカや米兵が持つ文化や習慣を受け生まれた「Souvenir of Japan」(日本のおみやげ)の一端を、横須賀・ドブ板通りの写真や資料とともにご紹介します。
コリダールでは、事前特集として、スカジャン展をより楽しむための「キーワード」2つを紹介します。公立美術館では、初となる「スカジャン」をテーマとした展覧会。こうご期待ください。

KEYWORD 1

SOUVENIR JACKET

スーベニアジャケット

光沢ある生地のジャケットに、鷲、虎、龍などの和装由来の豪華な刺繍が施された「スカジャン」。もともとは、「スーベニアジャケット」と呼ばれ、その名の通り、戦後、日本国内の米軍施設内やその周辺で売られ、米兵たちに爆発的な人気を博した「おみやげ」だったのです。
時が経ち、日本人のアメリカンカジュアルへの憧れや、ヴィンテージブームにより、数多くのスーベニアジャケットが日本に里帰りします。里帰りしたスーベニアジャケットは、戦後よりスーベニアジャケットを売り続けている横須賀「ドブ板通り」のイメージと結び付き、**「横須賀ジャンパー」**略して**「スカジャン」**の名でファッションアイテムとして定着し、現在、日本のみならず世界中で根強い人気を誇っています。

豪華な刺繍はスカジャン最大の魅力ですが、こちらはハンドプリント(手捺染)により図案が表されています。ハンドプリントの手法はかなり手間がかかるため、僅かしか生産されませんでした。本展では、テーラー東洋(東洋エンタープライズ株式会社)が所蔵する希少品や初公開となるスカジャンを多数展示します。

《Mt.Fuji, Cherry Blossoms and Eagle》(部分)1950年代中期
テーラー東洋(東洋エンタープライズ株式会社)蔵

REVERSIBLE

別々のものと思いきや、実は1着のスカジャンの表と裏。リバーシブル仕様は、スカジャンの基本とともに特徴でもあります。

《Bamboo and Roaring Tiger × Mt.Fuji and Eagle》
1950年代前期
テーラー東洋(東洋エンタープライズ株式会社)蔵

似顔絵と、日本の象徴である富士山や桜の花が描かれた手描きのスカーフ。「1946」「Yokosuka」の表記があり、戦後すぐの横須賀において、米兵向けの商いの一端を知ることができます。

《Caricature Scaf"Yokosuka Japan"》1946年
横地 広海知氏蔵

KEYWORD 2

DOBUITA STREET

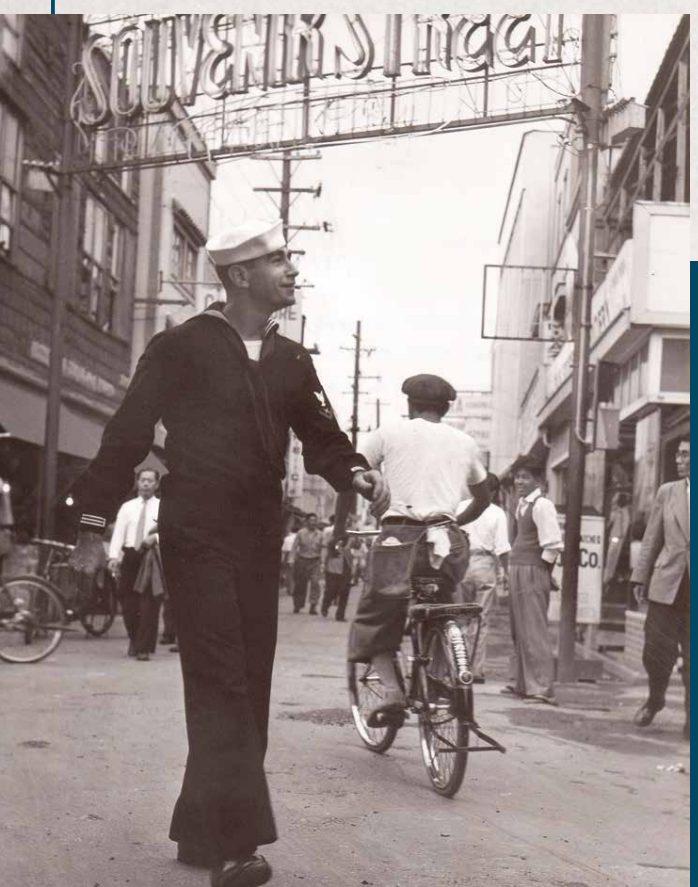
ドブ板通り

戦後、横須賀には米海軍基地が置かれ、米兵や関係者で街は賑わいを見せます。その米兵たちが求めたものが、自分や本国の家族や恋人に送る、「Souvenir of Japan」(日本のおみやげ)でした。
米海軍基地近くの「ドブ板通り」には、「スーベニヤ(屋)」と呼ばれる、スカジャンをはじめとする米兵向けのおみやげを扱う商店が軒を連ねました。本展では、戦後から50年代の「ドブ板通り」の写真や資料、実際に米兵向けに売られていた商品などにより、当時の様子を紹介します。

店内の壁には、黒の別珍生地のスカジャンや子ども用スカジャンが掛けられています。

《ドブ板通りの米兵向け
土産物店「スーベニヤ」》1956年9月
米公文書館蔵
(横須賀市立中央図書館郷土資料室提供)

現在も多くの米海軍関係者が行き来するドブ板通り。新旧、東西、昼と夜など、様々なものが入り混じったドブ板通りには、独自のカルチャーが息づいています。



米軍公式記録の1枚。この頃、ドブ板通りのアーチには、「SOUVENIR STREET」の文字が掲げられていました。

《ドブ板通りを歩く米兵》1955年10月
米公文書館蔵(横須賀市立中央図書館郷土資料室提供)

※掲載作品は、出品されない場合があります。

PRIDE OF YOKOSUKA　スカジャン展

会期	2022年11月19日(土)～12月25日(日)
開館時間	10:00～18:00
休館日	12月5日(月)
主催	横須賀美術館
特別協力	東洋エンタープライズ株式会社
協力	ドブ板通り商店街振興組合
企画協力	ドブ板スカジャン研究会
観覧料	一般1300円 その他、展覧会情報は当館HPをご覧ください。

同時開催 | 入場無料

スカジャン展サテライト会場 in ドブ板通り

詳しくはHPへ!